



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月28日

上場取引所 東大名

上場会社名 株式会社神戸製鋼所
コード番号 5406 URL <http://www.kobelco.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 秘書広報部 広報担当部長
四半期報告書提出予定日 平成22年11月2日

(氏名) 佐藤 廣士
(氏名) 大井 敬一
配当支払開始予定日

TEL 03-5739-6010
平成22年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	922,055	17.0	69,843	—	49,326	—	29,452	—
22年3月期第2四半期	788,178	△33.9	△24,644	—	△44,242	—	△45,314	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	9.80	—
22年3月期第2四半期	△15.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	2,271,265	573,844	23.2	175.73
22年3月期	2,249,345	557,002	23.0	172.08

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 527,617百万円 22年3月期 516,671百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	1.50	1.50
23年3月期	—	1.50	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無
期末配当予想額については未定であります。

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,910,000	14.3	115,000	149.9	80,000	679.9	45,000	613.7	14.98

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 3,115,061,100株 22年3月期 3,115,061,100株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 112,728,385株 22年3月期 112,684,172株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 3,002,345,476株 22年3月期2Q 3,002,489,630株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3「当四半期の連結業績等に関する定性的情報（2）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の中間配当につきましては、1株につき1円50銭といたしました。しかしながら、期末配当につきましては、考慮する要素に不透明な部分も多いことから、予想額を未定としております。

(参考)個別業績予想

平成23年3月期の個別業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,120,000	13.0	43,000	—	22,000	—	25,000	792.7	8.31

(注)当四半期における個別業績予想の修正有無 : 有

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、景気対策の効果や、海外経済の改善を背景に、昨年度からの緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前年同期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前年同期を大きく上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に比べ1,338億円増収の9,220億円となり、営業損益は、前年同期に比べ944億円増益の698億円、経常損益は、前年同期に比べ935億円増益の493億円、四半期純損益は、前年同期に比べ747億円増益の294億円の、それぞれ利益となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）を適用しており、従来、製品等の類似性を考慮して決定しておりました事業セグメントの区分を経営管理上の事業セグメントの区分に変更しております。前年同期比は前第2四半期連結累計期間分を新区分に作成し直して記載しております。

当第2四半期連結累計期間の新たなセグメント毎の状況は以下のとおりであります。

鉄鋼事業部門

鋼材については、景気対策の影響などにより、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどから、当第2四半期連結累計期間の鋼材販売数量は、前年同期を上回りました。また、販売単価については、前年同期並となりました。

鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が減退したことなどから、前年同期を下回りました。一方、チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整が進展したことなどにより、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比19.4%増の4,134億円となり、経常損益は、在庫評価影響の大幅な改善もあり、前年同期に比べ635億円増益の91億円の利益となりました。

溶接事業部門

溶接材料の販売数量は、中国や東南アジアの需要が堅調に推移したことから、前年同期を上回りました。一方、溶接システムでは、国内の建築分野の低迷により、売上高は減少しました。この結果、当事業の売上高は前年同期比4.7%減の371億円となり、経常損益は、溶接材料の販売数量増の影響により、前年同期に比べ22億円増益の21億円の利益となりました。

アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品の販売数量やアルミ鋳鍛造品の売上高は、自動車向けや液晶・半導体製造装置関連を中心に需要が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。

銅圧延品の販売量は、板条は半導体・自動車端子用の需要が好調に推移し、銅管は猛暑によりエアコン用の需要が増加したことから、前年同期を上回りました。

以上のような状況に加えて、販売価格に転嫁される地金価格が上昇したことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比28.2%増の1,550億円となり、経常損益は、前年同期に比べ131億円増益の97億円の利益となりました。

機械事業部門

自動車及び石油精製・石油化学業界などにおける設備投資が、緩やかに回復したことから、関連製品の受注は、前年同期を上回りました。

以上の状況から、当第2四半期連結累計期間の受注高は、前年同期比61.5%増の694億円となり、当第2四半期連結累計期間末の受注残高は、1,572億円となりました。

一方、当第2四半期連結累計期間の売上高は、大型の石油精製用高圧反応器の売上が集中した前年同期と比べると、9.7%減の716億円となり、経常利益は、前年同期に比べ20億円減益の85億円となりました。

資源・エンジニアリング事業部門

当第2四半期連結累計期間において、大型還元鉄プラントを受注したことなどから、当事業の受注高は、前年同期を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の受注高は、前年同期比209.9%増の478億円となり、当第2四半期連結累計期間末の受注残高は、927億円となりました。

また、当第2四半期連結累計期間の売上高は、大型ペレットプラントの売上を計上した前年同期と比べると15.1%減の211億円となり、経常利益は、前年同期に比べ2億円減益の14億円となりました。

神鋼環境ソリューション

当第2四半期連結累計期間において、水処理プラントや化学・食品関連装置の受注が堅調に推移したことなどから、当事業の受注高は前年同期を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の受注高は、前年同期比6.1%増の353億円となり、当第2四半期連結累計期間末の受注残高は、450億円となりました。

一方、当第2四半期連結累計期間の売上高は、大型の廃棄物処理プラントの売上を計上した前年同期と比べると、19.9%減の300億円となりましたが、経常利益は、コスト削減に取り組んだことなどから、前年同期に比べ、6億円増益の11億円となりました。

コベルコ建機

主力市場である中国での販売台数が、前年同期を大幅に上回りました。また、需要の回復が続く東南アジアや、需要が持ち直しに転じた国内の販売台数についても、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比67.4%増の1,756億円となり、経常利益は前年同期に比べ180億円増益の188億円となりました。

コベルコクレーン

一部地域を除き需要が低迷したことから、販売台数は、前年同期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は前年同期比16.4%減の233億円となり、経常利益は前年同期に比べ5億円減益の1億円となりました。

その他

不動産販売において、分譲マンションの引渡戸数が減少したことなどから、その他の事業全体の売上高は前年同期比25.2%減の302億円となりましたが、経常利益は液晶配線膜用ターゲット材の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ4億円増益の20億円となりました。

(2) 連結業績予想に関する定性的情報

足下の世界経済は、中国を中心とした新興国に牽引される形で回復基調が継続しているものの、先進国においては、景気対策効果の減退や、欧州における財政危機影響などが懸念されます。また我が国においては、いわゆるエコカー補助金の終了や家電エコポイント制度の見直しなど景気対策の縮小による影響に加え、当第2四半期からの急激な円高が国内産業に及ぼす影響も懸念され、先行きの不透明感が増えています。

このような状況を踏まえ、第3四半期以降のセグメント毎の状況を以下のように予想しております。

鉄鋼事業部門

鋼材需要は、景気対策の縮小に伴う減退影響や、中国を中心とした海外の需給環境、為替動向など予断を許さない状況にあることから、内外の市場動向を注視してまいります。また、鍛造鋼品については、引き続き造船向けの需要が低迷するものと見通しているものの、チタン製品については、需要が緩やかに回復するものと想定しております。

溶接事業部門

中国、東南アジアを中心としたアジア市場の需要は堅調に推移するものと予想しておりますが、為替動向による影響が懸念されます。

アルミ・銅事業部門

国内では景気対策の縮小などに伴い需要は減退し、一方、中国を中心とした海外では需要は堅調に推移するものと見通しておりますが、為替動向による影響が懸念されます。

機械事業部門

自動車関連のタイヤ・ゴム機械や石油関連の大型圧縮機などの需要が堅調に推移するものと想定しております。

資源・エンジニアリング事業部門

新製鉄法であるITmk3商業一号機に続く案件の事業化に向けた検討を進めています。

神鋼環境ソリューション

官公庁向けの水処理プラントや民間企業向けの化学・食品関連装置の新規受注環境は不透明ですが、アフターサービス需要は堅調に推移するものと見込んでおります。

コベルコ建機

中国における需要は、好調に推移するものと想定しております。また、国内における需要は、緩やかに回復するものと見込んでおります。

コベルコクレーン

一部地域を除き、需要は低迷するものと想定しており、また為替動向による影響も懸念されます。

その他

不動産販売においては、分譲マンションの引渡戸数が減少すると予想しております。また、試験分析事業における自動車及びエレクトロニクス業界向けの需要は緩やかに回復するものと見通しております。

これらのことから、通期の売上高は1兆9,100億円程度、営業利益は1,150億円程度、経常利益は800億円程度、当期純利益は450億円程度となる見通しです。

なお、前回(平成22年7月29日)公表した見通しに対し、第2四半期連結累計期間の決算が、機械事業部門でコスト削減が進んだことや、アルミ・銅事業部門で猛暑の影響によりエアコン向けの販売数量が想定を上回ったことなどにより増益となったことを踏まえ、通期の業績予想を連結・単独とも修正しております。

(当期の配当について)

当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の中間配当につきましては、1株につき1円50銭といたしました。しかしながら、期末配当につきましては、考慮する要素に不透明な部分も多いことから、予想額を未定としております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している資産について、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の経常利益は120百万円、税金等調整前四半期純利益は2,500百万円それぞれ減少しております。

(企業結合に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	169,595	131,939
受取手形及び売掛金	281,927	283,619
商品及び製品	115,740	126,811
仕掛品	143,641	138,070
原材料及び貯蔵品	118,339	102,179
その他	215,806	190,808
貸倒引当金	△770	△818
流動資産合計	1,044,281	972,611
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	282,562	288,284
機械装置及び運搬具(純額)	381,096	395,641
土地	203,762	204,298
その他(純額)	71,252	79,845
有形固定資産合計	938,674	968,070
無形固定資産	22,655	21,385
投資その他の資産		
投資有価証券	175,954	196,565
その他	93,071	94,599
貸倒引当金	△3,371	△3,886
投資その他の資産合計	265,654	287,278
固定資産合計	1,226,984	1,276,734
資産合計	2,271,265	2,249,345
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	508,116	434,819
短期借入金	141,003	167,876
1年内償還予定の社債	236	235
未払法人税等	7,944	6,518
引当金	32,882	34,748
その他	150,971	163,974
流動負債合計	841,155	808,173
固定負債		
社債	213,067	213,186
長期借入金	508,518	525,170
退職給付引当金	31,548	33,247
その他の引当金	2,677	2,780
その他	100,454	109,786
固定負債合計	856,266	884,170
負債合計	1,697,421	1,692,343

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	233,313	233,313
資本剰余金	83,125	83,125
利益剰余金	283,724	258,853
自己株式	△51,377	△51,378
株主資本合計	548,784	523,913
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,936	22,529
繰延ヘッジ損益	1,036	882
土地再評価差額金	△4,756	△4,866
為替換算調整勘定	△29,383	△25,787
評価・換算差額等合計	△21,167	△7,242
少数株主持分	46,226	40,330
純資産合計	573,844	557,002
負債純資産合計	2,271,265	2,249,345

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	788,178	922,055
売上原価	740,246	773,512
売上総利益	47,931	148,543
販売費及び一般管理費	72,576	78,699
営業利益又は営業損失(△)	△24,644	69,843
営業外収益		
受取利息	1,149	1,200
受取配当金	1,494	1,335
業務分担金	3,477	3,384
持分法による投資利益	574	1,284
その他	8,029	6,723
営業外収益合計	14,724	13,928
営業外費用		
支払利息	10,742	10,331
出向者等労務費	9,394	8,560
その他	14,185	15,553
営業外費用合計	34,322	34,445
経常利益又は経常損失(△)	△44,242	49,326
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2,203
特別利益合計	—	2,203
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,380
特別損失合計	—	2,380
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△44,242	49,149
法人税、住民税及び事業税	4,349	8,444
法人税等調整額	△3,792	1,156
法人税等合計	557	9,600
少数株主損益調整前四半期純利益	—	39,548
少数株主利益	515	10,096
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△45,314	29,452

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						
	鉄鋼 事業部門	溶接 事業部門	アルミ・銅 事業部門	機械 事業部門	資源・エンジニア リング事業部門	神鋼環境 ソリューション	コベルコ 建機
売上高							
外部顧客への売上高	330,606	38,883	120,360	76,763	20,199	35,464	104,303
セグメント間の内部売上高又は振替高	15,659	62	546	2,645	4,690	2,054	626
計	346,265	38,946	120,907	79,408	24,890	37,518	104,929
セグメント損益	△54,395	△75	△3,416	10,648	1,730	485	745

	報告セグメント		その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コベルコ クレーン	計				
売上高						
外部顧客への売上高	23,982	750,564	33,491	784,055	4,122	788,178
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,978	30,263	6,925	37,189	△37,189	—
計	27,961	780,827	40,417	821,244	△33,066	788,178
セグメント損益	759	△43,517	1,628	△41,888	△2,352	△44,242

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						
	鉄鋼 事業部門	溶接 事業部門	アルミ・銅 事業部門	機械 事業部門	資源・エンジニア リング事業部門	神鋼環境 ソリューション	コベルコ 建機
売上高							
外部顧客への売上高	395,210	36,481	153,522	68,395	20,044	28,447	175,036
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,255	618	1,481	3,292	1,097	1,590	578
計	413,466	37,100	155,003	71,687	21,142	30,037	175,614
セグメント損益	9,197	2,181	9,774	8,584	1,481	1,165	18,837

	報告セグメント		その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コベルコ クレーン	計				
売上高						
外部顧客への売上高	20,318	897,456	23,240	920,697	1,358	922,055
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,046	29,960	6,978	36,938	△36,938	—
計	23,364	927,417	30,218	957,636	△35,580	922,055
セグメント損益	190	51,412	2,053	53,466	△4,139	49,326

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

なお、各報告セグメントの主な製品・サービスは、次のとおりであります。

鉄鋼事業部門

条鋼（普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼）、鋼板（厚板、中板、薄板（熱延・冷延・表面処理））、鋼片、鍛鋼品（船用部品・電機部品・産業機械部品等）、チタン及びチタン合金、鉄粉、鋳物用銚、製鋼用銚、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

溶接事業部門

溶接材料（各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス）、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品（飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔）、銅圧延品（半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管）、アルミニウム合金及びマグネシウム合金鍛造品（航空機用部品、自動車用部品等）、アルミ加工品（自動車用部品・建材・建設用仮設資材等）

機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント（製鉄圧延、非鉄等）、各種内燃機関

資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント（還元鉄）、各種プラント（ペレタイジング・石油化学等）、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム、搬送機器

神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品機械

コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ

コベルコクレーン

クローラクレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料（ターゲット材等）、各種材料の分析・解析、高压ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。